

事業実施計画書の作成について(留意事項及び記載イメージ)

(留意事項)

事業実施計画書について、地域連携事業、臍帯血支援事業、人材育成事業及びコーディネート支援事業のそれぞれについて、5年間の計画と、それを踏まえた初年度の計画を記載してください。5年間の計画については「目指すべき体制」と「課題への対応策」を、初年度の計画については5年間の計画を達成するために、初年度において目標となる「目指すべき体制」や「課題への対応策」を、特に重点的に記載してください。

また、記載イメージはあくまで参考ですが、予算割り当ての評価にも使用いたしますので、記載イメージ以外の内容も含めて具体的に記載してください。根拠となるデータは本計画書内に記載または別途添付資料として提出でも可とします。

なお、初年度に必要となる予算の総事業費は1拠点病院あたり、3,500万円を目安としてください。

- いずれの項目についても、ブロック全体を俯瞰し、ブロック内の各地域の医療を充実させる観点から記載してください。
- 造血幹細胞移植医療体制整備事業公募要領の別紙「造血幹細胞移植推進拠点病院に求められる要件」を参考に、現状の分析を行った上で、具体的な対応策や目標とする体制をそれぞれ5年間及び初年度の計画に記載してください。
- 記載イメージを下記に示しますが、それぞれの内容はあくまで最低限記載いただきたいものであり、各施設において記載内容を追加することを制限するものではありません。

(記載イメージ)

【造血幹細胞移植地域連携事業】

○当該ブロックにおける地域連携についての現状・課題について

- ・ ブロック内を別紙に示す地域に区分した場合、_____地域において LTFU 外来を設置している施設がない。
- ・ _____地域において、日本造血細胞移植学会が主催する同種造血細胞移植後フォローアップのための看護師研修会を受講した看護師がおらず、LTFU 外来を開設できない。
- ・ _____地域において、移植後患者を受け入れる非専門医、かかりつけ医等が他の地域と比較して少ない。
- ・ _____地域において、災害時などの造血幹細胞移植体制の連携が確立されていない。

○現状の根拠となるデータ

- ・ _____地域在住の、移植後〇年以上経過した長期生存患者数
- ・ _____地域における LTFU 外来の設置状況
- ・ _____地域における移植後患者の LTFU 外来の受診率
- ・ _____地域における一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会が主催する同種造血細胞移植後フォローアップのための看護師研修会の受講を行った看護師数
- ・ _____地域における患者手帳の配布状況や、連携している開業医や地域の医療機関の数

○課題への対応策

＜5年間の計画＞

- ・ 当該ブロックにおいて現在〇地域ある LTFU 外来の空白地域をなくし、長期生存患者の LTFU 外来受診率を〇%から〇%に上げる。
- ・ _____地域において、医師会を通して、開業医や地域の医療機関を対象とした移植のベーシックな内容及び患者手帳に関するセミナーを、5年間に〇回以上行う。そこで参加した施設に対し、セミナー受講証を作成するなどし、連携施設名を HP に掲載する。連携施設は5年間で〇施設を目標とする。
- ・ 災害時の BCP を策定し、地域の移植施設・採取施設及び造血幹細胞関連機関へ BCP の共有を行い災害に備える。

＜初年度の計画＞

- ・ _____地域において、_____病院の LTFU 外来を他の施設の患者でも受けられるように、クリニカルパスを作成する。
- ・ LTFU 外来を担当できる医師を _____病院に〇名派遣し、_____地域に LTFU 外来を設置する。

参考 様式 3 (留意事項及び記載イメージ)

- ・ _____ 地域において、医師会を通して、開業医や地域の医療機関を対象としたセミナーを開催する。
- ・ 自施設及び地域の造血幹細胞移植実施機関における災害対応の内容を確認し、今後の BCP 策定に向けた調査を実施する。

○目指すべき体制

<5年間の計画>

- ・ _____ を整備することで _____ 地域における移植後患者が全員、適切な長期フォローアップを受けることができるような体制を構築する。
- ・ 患者の長期フォローアップを目的として、非移植施設を含む地域の医療機関との連携体制を構築する。

<初年度の計画>

- ・ _____ 地域における長期生存患者の LTFU 外来受診率を上げるため、医師の派遣や近隣施設への受診を容易に行えるよう、連携体制を構築する。
- ・ 地域の医療機関と連携していくために、各地域の医師会との間における連携体制を構築する。
- ・ 当該ブロックにおける移植後患者の状態把握を行うため、各地域の LTFU 外来等を通じた連携体制を構築する。

○初年度に必要となる予算

- ・ LTFU 外来の診療支援のための医師の派遣： $\text{〇人} * \text{〇カ所} * \text{年} \text{〇回} = \text{〇千円}$
- ・ 地域の医療機関との連絡会議や研修会の開催： $\text{年} \text{〇回} * \text{〇千円} = \text{〇千円}$
- ・ 地域連携支援センターの設置のための調査経費： 〇千円
- ・ 患者手帳の作成（〇冊）： 〇千円
- ・ 災害対応のために必要な BCP 策定のための調査経費： 〇千円

【臍帯血移植支援事業】

○当該ブロックまたは地域における臍帯血移植の現状・課題について

- ・ 移植ソースの選択として臍帯血移植の実施が骨髄・末梢血幹細胞移植と比較して少ない。
- ・ 当該ブロック(または地域)において、臍帯血採取施設があるものの、臍帯血移植についての理解が十分でないことから採取数が増加していない。
- ・ 提供対象となる方(主に妊婦)等への臍帯血移植や臍帯血提供についての理解が十分に実施できていない。
- ・ 臍帯血採取施設においても、血液内科や小児科等造血幹細胞移植を実施する診療科とのコミュニケーションが十分に取れていない。
- ・ 臍帯血供給事業者とのコミュニケーションが十分でないことから、移植前と移植後の連携が進んでいない。

○現状の根拠となるデータ

- ・ 当該ブロック(または地域)の移植施設における、移植実施数(移植ソースごと)の比較
- ・ 当該ブロック(または地域)の出生数
- ・ 当該ブロック(または地域)の出生数と臍帯血採取数、および採取割合

○課題への対応策

<5年間の計画>

- ・ 臍帯血供給事業者との連携により、臍帯血移植の申込みから移植後の副反応報告等までの円滑な実施体制を図る。
- ・ 臍帯血供給事業者との連携を行い、臍帯血採取施設への研修を開催し、採取数の増加や技術向上を図る。
- ・ 臍帯血採取実施率を〇%から〇%へ上げる。
- ・ 当該ブロック(または地域)の移植施設及び非移植施設に対し、(採取含む)臍帯血移植についての講習会を実施することで臍帯血移植の理解促進や実施の増加を図る。

<初年度の計画>

- ・ 臍帯血供給事業者との連携可能な体制構築に必要となる
- ・ 当該ブロック(または地域)における臍帯血移植(提供含む)認知度の調査と対策検討に必要な打合せの開催

○目指すべき体制及び地域の臍帯血供給事業者との連携体制

<5年間の計画>

- ・ 臍帯血供給事業者と連携しながら、臍帯血移植が円滑に実施できるような体制を構築する。
- ・ 移植実施施設だけでなく、臍帯血採取施設への研修を実施することで臍帯血移植全体の理解促進を図る。

<初年度の計画>

- ・ 臍帯血供給事業者との連携可能な体制構築のための調整を行う。
- ・ _____地域における_____の向上(増加)を図るため、臍帯血供給事業者や造血幹細胞移植推進地域拠点病院と連携し研修会等が行える体制を整える。

○初年度に必要となる予算

- ・ 臍帯血供給事業者との連携可能な体制の構築にかかる連絡調整費 〇千円
- ・ 採取技術向上に向けた研修会の開催 年〇回開催 : 〇千円×〇=〇千円
- ・ 臍帯血移植の理解促進のための講習会 年〇回開催 : 〇千円×〇=〇千円

【造血幹細胞移植医療人材育成事業】

○当該ブロックにおける移植医療の人材についての現状・課題について

- ・ ブロック内を、別紙に示す地域に区分した場合、他の地域と比較して_____地域において、移植医、LTFU研修を受講した看護師、HCTC が不足している。結果、_____地域における患者が移植や移植後のフォローアップを受ける際、遠方より診療を受けに来ることになる。
- ・ _____地域における造血幹細胞移植に従事する、医師・HCTC 以外の医療従事者においては、学会等が主催する研修に参加した者が、〇年で〇人と、他の地域と比較して少ない。
- ・ (当該ブロックにおいて人材育成はほぼ問題なく進んでおり、新たな事業としての優先度は低い。)

○現状の根拠となるデータ

- ・ 当該ブロックにおける地域毎の、学会が認定する造血細胞移植認定医数
- ・ 当該ブロックにおける地域毎の患者/移植認定医の割合
- ・ 当該ブロックにおける地域毎の LTFU 外来の設置状況
- ・ 当該ブロックの医療従事者における地域毎の研修受講状況

○課題への対応策

<5年間の計画>

- ・ 5年間で〇人の_____を育成し、育成後は_____地域に配置する。
- ・ 5年間で_____地域における_____が研修を受けるようにする。

<初年度の計画>

- ・ _____病院から〇人の_____を研修生として受け入れ、必要に応じて代替の人材を派遣する。
- ・ _____地域にて、多職種を対象に、移植医療の基礎的な知識を高めることを目的として、出張研修会を〇回開催する。

○目指すべき体制

<5年間の計画>

- ・ _____地域の患者については、その地域の中で移植後のフォローアップを受けることが出来るようになる体制を作る。
- ・ _____地域の患者については_____地域又は_____地域でも移植を受けられるような連携体制を作る。
- ・ 新規に造血幹細胞移植に従事することとなった_____に対して、適切に研修を受けることが出来るような体制を作る。

<初年度の計画>

- ・ _____地域における_____を育成するため、_____病院と連携して人材

育成を行う体制を整える

- ・ ブロック内の各地域において、研修会を円滑に開催するため、造血幹細胞移植推進地域拠点病院との協力体制を構築する。

○初年度に必要となる予算

- ・ _____の研修受け入れ：○人（年○回×○ヵ月）× ○千円＝○千円
- ・ 地域の医療機関における出張研修会の開催：年○回×○千円＝○千円

【造血幹細胞移植コーディネート支援事業】

○当該ブロックにおける同種移植のコーディネートについての現状・課題について

- ・ ○年前に比べ、非血縁者間骨髄移植、末梢血幹細胞移植について、ブロック内におけるドナー選定から移植までのコーディネート期間の中央値は○日間から○日間に短縮している。
- ・ 骨髄採取の手術室枠の空き情報がオンタイムに骨髄バンクへ伝わらない。
- ・ ブロック内を別紙に示す地域に区分した場合、_____地域における末梢血幹細胞採取が可能な施設が、○施設と少ない。

○現状の根拠となるデータ

- ・ 当該ブロックにおける非血縁者間骨髄・末梢血幹細胞移植のドナー選定から移植までのコーディネート期間の推移
- ・ 当該ブロックにおける移植件数、採取件数の推移
- ・ 当該ブロックにおける採取施設数や調整医師数、HCTC数の推移

○課題への対応策

<5年間の計画>

- ・ 地域における末梢血幹細胞採取が可能な施設数を○施設から○施設に増加させる。
- ・ 非血縁者間骨髄移植、末梢血幹細胞移植の、ブロック内におけるコーディネート期間の中央値を○日間から○日間まで短縮する。

<初年度の計画>

- ・ 初年度は_____地域の_____病院に対し、年間○件の採取支援を行い、採取施設認定が取得できるようにする。
- ・ 採取施設の選定を迅速に行うため、骨髄バンクとブロック内の採取施設間において、手術室の空き情報を共有するための連携方法を構築する。

○目指すべき体制

＜5年間の計画＞

- ・ コーディネート期間の中央値を○日間まで短縮することを目指し、ブロックの実情に合わせて、_____を行うこと、でコーディネート効率化を図った体制を作る。

＜初年度の計画＞

- ・ ブロック内のどの施設にでも遅滞なく採取施設に選定できるようにするため、具体的に_____することで、施設間の効率的な連携体制を構築する。

○初年度に必要な予算

- ・ コーディネート短縮に向けた対策会議の開催 :
年○回開催 : ○千円 × ○ = ○千円